

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2025年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科		
科目名称	美術史						授業形態		講義・演習	
科目コード	110830	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	園田 博一								ICT活 用	○
授業概要	本授業では、西洋美術史の通史を解説し、歴史の流れとそのエポックを紹介しながら学修する。 原始美術からエジプト、ギリシア・ローマ、キリスト教美術、ロマネスク、ルネサンス、バロック、ロココ、近代美術（新古典、ロマン主義、写実主義、印象派）、現代美術への流れを通史する。現代に生きる学生が歴史の流れを概観し、そこから学ぶ造形的な様々な要素を自己の表現に生かすことに繋げるようにしたい。歴史的遺物を描き出し、その特徴の一端を感得していく。									
関連する科目	博物館概論、博物館資料論、博物館資料保存論、博物館展示論の学習の併用が望ましい。									
授業の進め方 と方法	自作テキストとスライドを基に、美術史上の背景や様式・概要を説明する。各時代の代表的な作品については、社会的背景を基に解説を加え、教養と関心を高める。グループ討議にも取り組む。 模写を通して作品の実態に近づき、造形的・視覚的にアピールできる工夫を行うなどして、作品の持つ魅力に迫る。 実技活動を通し、感性を養うことをめざしている。 作品・作家や時代背景などについての情報収集にICT活用を進める。 展覧会の紹介や鑑賞などを通し、芸術を生活の中に取り組むスキルを高めたい。									
授業計画 【第1回】	オリエンテーション お互いを知り合うために自己紹介を行う。 講師紹介を行う。美術史に関する体験を語り合う。 美術史の中で関心のある事項を発表し合う。グループ発表や討議を行う。									
授業計画 【第2回】	原始美術～古代文明 ・人類の誕生について、文明の起こり。洞窟壁画等（ラスコー洞窟、アルタミラ洞窟画） ・四大河文明（エジプト、メソポタミア、インダス、黄河文明）。それぞれの文明の特徴、代表作品を示し説明する。 世界白地図を用いて、地理上の位置を確認する。ピラミッド、スフィンクス、エジプト絵画について解説する。									
授業計画 【第3回】	古代オリエント、ギリシア、ローマ美術 ・地中海沿岸の白地図を使い位置を確認をする。代表作品を選択し、描写を試みる。									
授業計画 【第4回】	中世美術（キリスト教、ビザンチン美術） ・初期キリスト教美術に関する特徴を説明する。 建築、イコン画像を描写する。									
授業計画 【第5回】	ロマネスク・ゴシック美術 ・それぞれの時代の特徴を、建築、美術作品（モザイク画）を通じて解説する。天へのあこがれについて触れる。									
授業計画 【第6回】	ルネサンス美術 三大巨匠（レオナルド・ダ・ヴィンチ、ミケランジェロ、ラファエロ）を中心に、作品や人間像に迫る。 「モナリザ」「ダビデ像」「聖母像」を描き三人の特徴を掴む。									
授業計画 【第7回】	バロック、ロココ、北方ルネサンス ・時代の変遷を、特徴的な作品を通じて解説する。光と影に注目しその表現を探る。									
授業計画 【第8回】	19世紀の美術（ロココ、ゴヤ） ・軽やかな表現のロココ、重厚なゴヤ作品を通し、この時代について解説する。									
授業計画 【第9回】	新古典主義、ロマン主義、写実主義 ・18世紀から19世紀の激動の時代変化を作品の特徴をとらえながら解説する。 アングル、ジェリコー、ドラクロワの作品紹介を行う。									
授業計画 【第10回】	近代美術 印象派の成立 マネ、モネ、ルノワール ・印象派について、三人の画家を中心に解説する。 ・印象派とは何かを追求する。									

授業計画 【第11回】	近代美術 後期印象派 セザンヌ、ゴッホ、ゴーギャン ・印象派に繋がる、個性的な三人の画家について、その作品と人なりを解説する。
授業計画 【第12回】	近代から現代へ 印象派後、象徴主義、フォービズム、キュビズム ・新しい時代の到来について、作品の変化に注目し解説する。 ・スーラ、ルドン、ブラマンク、ブラック、ピカソなどを紹介する。
授業計画 【第13回】	ピカソについて ・20世紀を代表する、表現者としての画家の変容を通して、その表現の在り方を探求する。 ・表現の変遷をたどり、作品と人物に迫る。
授業計画 【第14回】	現代美術 空想・夢 シュルレアリスム マグリット、ダリなど ・20世紀における美術表現の激しい移り変わりを解説する。
授業計画 【第15回】	今日の美術 20世紀～21世紀へ 抽象表現主義、ポップアート他 全体の振り返り ・現代における、美術表現の多様性について解説する。 ・現存の活動家を取り上げ、リアルタイムな解説を試みる。
授業の到達目標	・美術史と作品資料鑑賞を通し、その成り立ちと時代背景を考察しながら理解を深める。 ・先人たちが築き上げてきた文化活動の発展が、文明の進歩とともに生きてきた背景を美術史の流れの学習により、教養としての基礎知識をたしかなものとする。 ・美術史を学びながら、表現する基本であるデッサンの技術（鑑賞作品の模写）を学ぶことで、見る目を養うことが可能となる。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(3)
授業時間外学習【予習】	授業前に学習範囲についての予習をする。歴史上の用語等を下調べする。興味を持った作品について事前調査をする。（約1時間）
授業時間外学習【復習】	学修した内容をさらに深めるため幅広い書籍の紹介と読書を勧め、歴史背景を復習する。展覧会等を積極的に見る態度を醸成する。（約1時間）
課題に対する フィードバック	講義による理論的なことを整理し、レポートを提出する。実技実習（模写）では制作の取り組み方を評価する。
評価方法・基準	提出物の採点による。（参加様子30%、課題制作30%、レポート40%）
テキスト	参考書籍は、授業のなかで紹介していく。手作り資料（プリント）を参考とする。
参考書	・宮崎県版『美術資料』秀学社 970円 学校生協で販売
備考	※受講生は、実技演習で2Bの鉛筆、色鉛筆を使用するので準備しておくこと。